

初代学長・山根新次先生の御遺稿

福 田 皎 二*

Notes by Yamane, first president of Shimane University

Kouji Fukuda*

このたび山根新次先生の御遺稿が、島根大学地球資源環境学教室の好意的なお取り計らい並びに、大学当局のご理解と暖かいご配慮により、遺稿所有者角清愛君**の希望が叶えられて、大学本部に永久保管されることになった。話の取り次ぎをした私としても、最も好ましい形で決着をみたことに安堵するとともに、教室の窓口として仲介の労を厭わず、希望の実現に取り組まれた徳岡隆夫教授の御熱意と御努力に対し満腔の謝意を表する次第である。今回の措置が一段落したこの機会に、紙面をお借りして遺稿の寄贈に至るまでの経緯について少し触れておきたい。

この発端は、2000年7月下旬に徳岡隆夫教授から出た“地質学史懇話会”に関する次の話しに始まる。「秋の日本地質学会第107年学術大会(松江大会)での夜間小集会の一つとして、“地質学史懇話会”の開催が企画されている。ついては、島根大学文理学部地学教室の初期の教室状況について20分程度の話をして欲しい」という要請である。短時間といえども教室史を語るとなると、立场上講話者としては元教官等教室ゆかりの方が適任であると思ったから、その旨を率直に申し上げて辞退した。それから数日後にお会いした折りに、この話しが再燃した。徳岡教授にも講話依頼の折衝でご苦勞がおありのようで、最終的に、初期の卒業生の立場で、ということで話しをお引き受けし、『島根大学、文理学部創立の頃の地学教室と初代学長山根新次』を演題とすることになった。

私自身、地質学史懇話会にこれまで出席したこともなく、また会の性格や会報についても無知であったので、当初どんな内容の話をしたらよいのかとまどった。他の講話者の演題との関連、言及の分野と範囲等いろいろ考えるとだんだん話しの纏まりが悪くなっていく。無理もない話である。話しのベースになる学生時代と言えれば45年経過し記憶の薄れた昔のことであるのに、郷愁を伴って蘇ってくる断片的な記憶を基にして、格好よく話を組み立てようとしたからである。発想の練り直しのため白紙に戻し資料集めから始めた。まず、講義題目について開学から15年間の地学教室担当を事務局で調べ、講義の流れを確認した。初期の地学教室の雰囲気

については、丁度時期を同じくして徳岡研究室を窓口として編集作業が進行していた『教室50年のあゆみ』用の資料提供を同窓1・2期の諸兄に呼び掛けていたので、届けられた諸資料からしっかりとこれを吸収できた。一言で表現するならば、極めて家族的雰囲気であった時代といえる。大学の歴史については、『島根大学史』(昭和56年3月発行)を資料とし、山根新次先生については、『島根大学史』及び『山根新次先生追憶集』から多くの事を知りかつ学んだが、先生に関する生の資料である「地学概論」と「鉱床学」ノートに目を通して聴講を再体験したかった。この2つの講義は、先生が初代の学長として大学設立時の複雑な問題処理で多忙な中、貴重な時間をさいて準備された一般教養と専攻生向けの格調の高い講義で、自ら学生の薫化に努められた証でもある。

私のノートは残念ながら若い頃に勤務先の寮の火災で焼失していたので、先生の講義を聴講した6期までの諸兄にノートほか関連資料の提供を要請し協力を求めた。届けられた資料は貴重であった。この中に今回の角清愛君からの先生の直筆遺稿が2編あった。一つは「鉱床学」の講義録であり、他の一つは鉱床学講義に関する研究メモで、Economic Geology掲載論文(Smith, F.G., 1953, Review of Physicochemical data on the state of supercritical fluids. Econ. Geol. 48, 1.)の先生の手による翻訳文(当時の最新情報)であった。

この2編の遺稿は、先生の思いでとして御内室が常に身近かに置かれていた品と伺っている。御内室亡き後、形見として縁の深い角清愛君が特別に頂いたものである。9月に入って借用資料の件で角君と連絡をとった際に寄贈の相談を受けた。彼としては、形見分けで頂いた先生の遺品とはいえ角家にいつまでも保管しておけるようなものではない。初代学長の直筆の講義録と付随研究メモという貴重な品でありかつ資料価値も高いので、できることならば、研究者が活用できるように大学図書館のしかるべきコーナーに保管して頂けるならばまことに幸いであるという意向であった。角君の意向を徳岡教授に伝え、受入れについてのご検討とご尽力をお願いした。

徳岡教授の並々ならぬ御尽力により、角君の「地学概論筆記ノート」も山根先生の「講義の証」として共扱いを受けることとなった。因に、「地学概論」は当時、“新制大学の一般教育での地学教育のあり方を示す教本となる講義”として評

* 文理学部地学科2期生。

**同上。元地質調査所所員、武蔵工業大学非常勤講師。

価されていた。

保管方法として御遺品は大学本部に、またコピー2部のうち一部を学科の図書室に収め、残りの一部を角君用とするというまことに心暖まる措置がなされ、仲介役の私としては肩の荷が下りた思いである。地球資源環境学教室並びに大学事

務局の関係各位のご配慮に深く感謝いたすとともに、この貴重な品が、今後資料として大いに活用されることを寄贈者ともども心から祈念している次第である。終わるに当たり、格別にご尽力いただいた徳岡隆夫教授に厚く御礼を申し上げます。